

編集後記

学生時代にご指導いただいた恩師の退官記念講演が2015年3月に開催されました。その講演の中で私が印象に残っているのは、私が研究室に所属していた時代が一番研究が上手くいかず「死の谷」のようだったという恩師の回顧でした。確かに、その当時は、研究テーマを大きく変更したものの研究結果が出ず、予算も獲得できないという「負のループ」の真っ只中でした。しかし、私が卒業する頃には予算を獲得することができ、これをきっかけに研究室は「正のループ」に移行しました。そして現在では、素晴らしい設備を整え、大学での電気推進機の研究をリードする研究室になりました。皮肉なことに、退官記念パーティに最も参加している世代は、この「死の谷」時代をともにした世代でした。みんなで昔話をしましたが、「それなりにきつかったけど、楽しかった」ということで全員の意見が一致していました。加藤登紀子の「時には昔の話を」(映画「紅の豚」のエンディ

ングテーマ)ではありませんが、予算はなくともなんとか学生が物を自作して、楽しく研究をしていました。その時の経験が今の私の原点であり、大学に残ることができた最大の要因だと思っています。現在私が所属している研究室をみると、装置は十分にあり予算も潤沢な方です。研究結果も出るのだから学生は楽しいだろうとは思いますが、私たち「死の谷」世代が味わったような「楽しくも辛い経験」をできないのは、それはそれで可哀想だと思いました。あの経験には、物作りの大変さと楽しさがつまっていて、エンジニアとして必要な成分が固まっていたからです。

今後、「死の谷」世代と会う機会が減ってしまうのが少し残念ではありますが、何か理由をつけて定期的に集まれるようにしたいなとは思っています。その際には先生にも是非参加していただければと思っています。

最後に改めて、「先生がおっしゃるほど『死の谷』だとは、みんな思っていなかったんですよ。」(増井博一)

プラズマ・核融合学会役員

会 長	二宮 博正	副 会 長	永津 雅章 (推薦委員長：研究助成)	小森 彰夫 (推薦委員長：学会賞)
常務理事	室賀 健夫 (総務委員長)			
理 事	安藤 晃 (企画委員長)	石原 修	上田 良夫	
	小野 靖	甲斐 俊也 (財務委員長)	草間 義紀 (広報委員長)	
	佐々木浩一	清水 克祐	白神 宏之 (支部・地区研究連絡会委員長)	
	白谷 正治 (研究部会連絡委員長)	豊田 浩孝 (編集委員長)	波多野雄治	
	福山 淳 (年会運営委員長)	米田 仁紀		
監 事	市村 真	中澤 一郎		

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ：豊田浩孝(名大) 副委員長：米田仁紀(電通大)

エディタ：安藤 晃(東北大)、坂本瑞樹(筑波大)、中村祐司(京大)、長友英夫(阪大)、小西哲之(京大) 佐々木浩一(北大)

編集委員：石澤明宏(核融合研)、内田儀一郎(阪大)、浦野 創(原子力機構)、落合謙太郎(原子力機構)、陰山 聡(神戸大)、笠田竜太(京大)、糟谷直宏(九大)、加道雅孝(原子力機構)、川崎仁晴(佐世保高専)、柴田裕実(阪大)、清水一男(静岡大)、白石裕之(大同大)、城崎知至(広島大)、鈴木達也(長岡技科大)、高橋俊樹(群馬大)、徳沢季彦(核融合研)、沼田龍介(兵庫県立大)、長谷川純(東工大)、林 信哉(九大)、菱沼良光(核融合研)、古川 勝(鳥取大)、増井博一(九工大)、松岡彩子(JAXA)、宮澤順一(核融合研)、森 芳孝(光産業創成大学院大)、森本泰臣(日揮)、山本 聡(京大)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第91巻第5号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階

印刷 株式会社荒川印刷

一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

2015年(平成27年)5月25日

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: http://www.jspf.or.jp/ 定価1,300円(税別)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。